

令和4年度

事業計画実績報告書

自 令和 4年 4月 1日

至 令和 5年 3月31日

社会福祉法人 横手福寿会

〒019-0703 秋田県横手市増田町吉野字梨木塚100-1

< 目 次 >

1. 理事会・評議員会 開催状況	1
2. 介護老人保健施設 りんごの里 福寿園	
・各部門総括	2～7
・各種委員会総括	8～10
・研修・出張の実施状況	11
・職員学習会の実施状況	12
・年間行事計画の実施状況	13
・慰問・ボランティア・実習等の状況	14
・防災計画の状況	15
3. グループホーム ひだまりの家	
・総括	16
・各種委員会総括	17～18
・年間行事計画の実施状況	19
・慰問・ボランティア・実習等の状況	20
・防災計画の状況	21
4. グループホーム ひなたの家	
・総括	22
・各種委員会総括	23～24
・年間行事計画の実施状況	25～26
・慰問・ボランティア・実習等の状況	27
・防災計画の状況	28
5. ショートステイ ラ・ボア・ラクテ	
・総括	29～30
・各種委員会総括	31～34
・研修・出張の実施状況	35
・職員学習会の実施状況	36
・年間行事計画の実施状況	37～38
・慰問・ボランティア・実習等の状況	39
・防災計画の状況	40
6. 居宅介護支援センター、訪問介護センター 訪問リハビリセンター 総括	41
7. りんごの里くらしのサポートセンター総括	42
8. 事業別利用者状況表	43

令和4年度 理事会・評議員会開催状況

(令和4年4月1日～令和5年3月31日迄)

令和 4年	
5. 13	監事監査
5. 25	理事会
6. 15	理事会 / 評議員会
11. 16	理事会
令和 5年	
1. 25	評議員会
3. 15	理事会 / 評議員選任解任委員会
3. 29	評議員会

介護老人保健施設 りんごの里 福寿園

< 各部門 総括 >

「看護部門」

1. ①入所利用者様の個々の状態把握が迅速になされ、必要な援助がなされることを目的に情報の共有の手段を繰り返し検討している。
②緊急時の対応については大きな問題なく経過しているが、近隣医療機関からの情報を踏まえながら対応できるようにしていきたい。
2. 感染症情報を把握して迅速な対応ができるように努めてきたが、11月下旬に新型コロナクラスター発生があった。発生時の経過等を振り返り以降の対応を見直している。
3. 備品の把握とコスト管理を意識して体制整備に努めている。
備品の管理について定期的な点検等の実施には至らなかったため今後検討していく。

「介護部門」

1. 利用者様の尊厳を守り、生活機能の維持・向上に努める。
①利用者様からの意見や訴えについて真摯に受け止め、対応の改善などに努めた。
②【3階】在宅復帰者を主として、職員が不足する中でも継続的なりハビリを提供する事が出来た。
一時帰宅による在宅リハビリの推進については、感染予防のため実施出来なかった。今後の課題と考える。
ご本人のモチベーション維持やご家族の期待がある中で、具体的な機能向上について評価・提示できる様にリハビリ課との連携を密に実施していきたい。自立支援・在宅復帰に特化したフロアとしての役割を継続目標としていく。
【2階】タクティールケア（不安な感情を取り除いたり、痛みを和らげたりする）、いきいきプログラム、体験工房については職員の欠員により提供できていない。日常のグループワークについては継続出来ている。今後は実施内容を見直し、少しでも日常に楽しみやハリを持った生活を送る事が出来る様にしていきたい。月1回のケーキバイキング・茶話会を開催している。四季のものを取り入れ、食の部分でも楽しみを提供していく。
③トラブル発生状況については例年通りの発生となっている。今後は予防の観点での対応に努め、不注意や受傷を伴う事故が無いように環境作りを行っていく。
2. 介護サービス向上、人材育成への取り組み強化
①各職員との個人面談を実施している。自身の仕事について見直すとともに、今後の課題へ向けた取り組みを考え実行できるように実施した。また、要望等について聞き取りを行う事で働きやすい環境作りに繋げていけるよう今後も継続する。
②新人オリエンテーションについては計画を見直し、また、オリエンテーション職員への指導も含め実施する事で、新人職員の職場定着を目指した。
③職員の欠員により外部研修への参加が出来なかった。今後はオンライン研修など参加しやすい環境である事から、積極的に参加していきたい。
④課内学習会を定期的に行う事ができ、職員の知識向上に努める事が出来た。

3. 高齢者虐待防止、身体拘束廃止、感染予防の周知徹底

- ①各委員会での学習会等をもとに周知を図った。虐待の発生はなく、また身体拘束についても必要性の確認や解除に向けての取り組みは継続出来ている。
- ②感染対策については、新型コロナウイルスへの適切な対応を継続していく。令和4年度は施設にて新型コロナウイルスが蔓延してしまったが、各課の協力体制があり、円滑に業務を遂行する事が出来た。日頃から1人1人のスタッフが感染防止対策を実施するとともに、感染予防を組織的に実践する体制を整えていく。

「リハビリ部門」

【入所・短期療養介護サービス】

1. 新型コロナウイルス感染症クラスター発生により令和4年11月末からの2カ月程度、集団リハビリテーション（以下、リハ）が中止となった。以降は感染予防策を講じて実施できているが、集団リハは利用者様の生活にリズムを生み、不活発な生活を防ぐために重要であることが再認識された。
2. 看護課・介護課と連携し、日常生活動作の自立度のアップや重度化予防に努めた。新型コロナウイルス感染症クラスター発生により感染症対策が優先され、利用者様の残存能力に応じた生活援助が困難となる期間があった。
3. 強化型老健の要件に合わせ、週3回の個別リハビリを実施している。令和4年11年末～12月は新型コロナウイルス感染症クラスター発生によりリハ業務がストップし、個別リハ中止となった。クラスターの終息に合わせて、日常業務を再開するための利用者様の運動能力の再評価を行った。
在宅復帰目的の新規入所者には短期集中リハ加算を算定し、週4～5回の個別リハを提供している。（今年度の算定者30名（昨年度10名）、リハ件数1169件（昨年度412件）短期入所の個別リハ提供は1133件（昨年度は1343件）であった。
4. 課内カンファレンスを定期的実施し、各職種で意見交換をして方針やプログラムを見直している。

【通所リハビリテーション】

1. サービス担当者会議に出席し、利用者様の生活像とリハビリの進捗状況を家族や他事業所と共有することに努めた。事前訪問に同行し、ニーズの把握・課題の焦点化を利用前に行うことで初回利用時の評価・プログラム実施の流れがスムーズとなった。
2. 施設内での自己トレーニングを個別に指導し、空いた時間を活用して行って頂いている。新型コロナウイルス感染症クラスター発生に伴う休業期間中、外出や運動機会が減ったため、営業再開時は疲れやすさが利用者様の多くに見られたが、自宅での自己トレーニングが生活の一部となった利用者様は心身機能の変化は最小限に抑えられていた。
3. 短期集中個別リハ加算算定者は0名であった。今後も通所相談員、ケアマネージャーに働きかけていく。

【職場環境の整備】

1. 職員の退職に伴い業務担当変更を行った。通所と入所でデスクが分かれているため、お互いの残務量を確認できず作業が非効率的となる場合があった。
2. 体調不良による長期休業等はなく、突発的な休みにも対応できている。不調のサインを見逃さないように今後も気を配っていく。

3. リハビリ機器や集団活動での感染対策は継続している。新型コロナウイルス感染症発生初期は職員を各フロアに配置し対象者を絞り個別リハを実施した。クラスター発生時は全面中止となった。
4. オンラインの研修に参加し、研修報告会や課内の勉強会を行った。
臨床実習指導者講習会修了者2名。受講資格のある職員全員の修了を目指し、計画的に受講していく。

「介護計画部門」

1. 在宅復帰支援

在宅復帰・在宅療養支援機能に対する評価（10項目の指標）では安定した加算算定ができていた。超強化型算定への取り組みを継続してきたが地域特色などを勘案し在宅強化型算定へ変更した。しかし、結果的には前3～6か月間の算定要件が反映され、自施設の指標は超強化型となる月が殆どであった。

介護老人保健施設の機能が地域に十分に認知され、特に医療機関の入退院支援担当や医療相談員、居宅介護支援事業所からの紹介が好調であり、在宅復帰者は44名であった。今後も在宅生活及び地域生活への移行を目指す利用者様を積極的に受け入れ、入退所前訪問、ご家族及び居宅介護支援事業所者との密な情報共有、効果的なリハビリテーション提供を軸に30～40%台の在宅復帰率、5～10%のベッド回転率を確保していく。

2. 安定した稼働率の維持

[入所]

年間を通して平算86を維持しなければならなかったが、年度後半が特に達成できなかった。要因として突発的な入院退所による空床を速やかに埋められなかった事（入所待機者の中からの入所者選定に難渋した）、在宅復帰前提の申込者がおらず長期入所希望者の事前面接までタイムラグを発生させてしまった事があげられる。また、11月下旬～年始かけて施設内コロナクラスターが発生し、入退所を中止した影響がある。老健機能にマッチした利用者獲得はこれまで通りに実施し、安定した利用稼働を維持すべく、申込み受付時からの仕分けや速やかに空床調整ができるように長期入所希望者の直近の状況確認と事前面接をこまめに実施する必要がある。

[短期入所]

入所ベッド回転率調整の関係と定期的に短期入所利用する方や在宅復帰後の機能訓練目的で短期入所を利用する方が増加している為、短期入所ベッド数を昨年度と同様で稼働。しかし、短期入所予定者の突発的体調不良や利用途中での退所等で予定変更が重なり、平算が9～11後半となってしまった。また入所同様施設内クラスター発生により1ヶ月以上短期入所受入れを中止した。今後において急な空床調整ができるように関係各所に情報提供する事、緊急の利用時はご家族送迎の協力依頼を行い、柔軟かつ誠実に対応できるように努めていく。

3. 多職種、各課との連携

事前面接時、詳細に必要な情報を各課と連携共有をし、定期カンファレンスや入退所前訪問で随時情報共有や検討事項を解決できている。

4. 職員のスキルアップを図る

オンラインを用いた研修への参加、地域ケア会議への出席を通じて学習機会と他事業所との意見交換する機会を持つ事ができた。

5. ケアマネジメント業務

利用者様、ご家族との面接を丁寧に実施し的確に課題を捉えて介護支援計画に反映させた。高齢者特有の急激な状態変化があった場合も、随時カンファレンス開催や他職種間の連携を今後も継続していく。

6. 相談及び援助

施設入所や当施設で提供するサービス利用に留まらず、利用者様やご家族のニーズに合わせた総合相談（成年後見制度利用、障害サービス利用、他施設への紹介など）に対応できている。

「通所リハビリテーション部門」

1. 利用者様の自立を目指し、生きがいのある生き活きとした生活を送るために支援する。

やる気ポイント制度について、新たに利用者様へ分かりやすく掲示する事で内容を周知し、活動内容についても再検討し、職員間で共通認識のもと利用者様へ支援することにした。利用者様がさらに主体的に活動でき、職員と共に通所リハビリを作り上げていけるような環境を目指し、今後も自主的な活動として活発に行っていく。

リハビリについてPT、OTによる個別・集団リハビリを強化している。介護職員も生活の中で、リハビリに対する視点をさらに高めながら、今後もリハビリ課職員と連携し情報を共有し機能維持に努めていきたい。

2. 利用者様やご家族の満足と達成感を得られる質の高いサービスを提供する。

普段の業務とすり合わせた内容を取り上げた課内学習会を定期的に行うことで、知識の向上に努め再確認する事ができた。また、定期的な利用以外にもご家族の都合によるスポット利用に関して、都度実施することができた。ご家族のレスパイト目的の利用に対してもしっかりと役割を果たせるよう努めていきたい。

3. 安全・安心に利用していただける環境作りに努め、細心の配慮を心掛け、サービス提供時の事故・トラブル減少に努める。

法令の順守及び安全を第一とした運転業務の遂行を強く指導し、事故がないように運転手のみならず添乗員も責任を持って送迎にあたる。特に冬期間は視界が悪く道幅も狭い為、時間に余裕を持ち行動する事を心がける。

利用中の転倒及び事故は16件、昨年度より3件減少しているが受診に至るケースあり。同じようなトラブルや再発防止策がしっかりと出来ていない事によって起きた事例もある為、職員個々の危険予知能力を高め、ヒヤリハットや、インシデントを周知して、適切な業務遂行し事故ゼロを目指す。

感染症においては、夏から秋にかけて新型コロナウイルスのクラスター発生。今後も継続して迎え時の体温測定、体調確認などの感染症対策を徹底し持ち込み防止に努めていく。

「口腔衛生部門」

1. 【通所】

口腔機能向上サービス利用者は、9～11名で推移している。新規利用者様の口腔アセスメントを実施、口腔内の状態把握と職員、ケアマネージャーへの情報提供を行うことができている。全利用者様の口腔に対する相談にも対応できている。職員への助言・指導を随時行っている。

2. 【入所】

新型コロナウイルス感染症のクラスター期間を除いて、口腔衛生管理体制加算・口腔衛生管理加算は全入所者様へ対応することができた。また、技術的助言及び指導と学習会を通して、職員への指導も行えている。

3. 【グループホーム】

口腔衛生管理体制管理加算において月1回の口腔チェック訪問出来ており、利用者様の口腔衛生向上に努めている。また、職員へも随時指導を行っている。緊急時は随時職員への助言を行っている。

4. 【ラ・ボア・ラクテ】

月2回の口腔チェック訪問を継続しており、利用者様の口腔衛生向上に努めている。訪問時は随時職員への助言を行い、口腔ケアの意識向上や技術向上につなげている。

5. 【関係医療機関との連携を図る】

歯科治療の希望者には、協力歯科医院の赤沢先生の往診治療を受け入れる体制にある。ご家族との連絡や歯科医院への依頼を行い、往診時の準備・対応を行っている。また、利用者様やご家族の希望で、末広歯科医院の対応も行っている。

6. その他

健康アップ教室利用者様に口腔ケア指導を行うことができた。

「事務部門」

1. 職場の環境作り

- ①各課の垣根を越え、多くの職員とのコミュニケーションを取り、各課にまたがる問題等を横断的に解決するよう心掛けた。
- ②仕事に対する充足感を得られるように、用がある時は事務課から出向き、現場第一で業務を遂行した。

2. 事務業務の共有化と標準化

- ①業務上必要に応じての協力体制の構築に努めた。担当者がいなければ全く分からないといった事が無いようにした。
- ②請求業務等や利用者様の預り金など、現金や数字を扱う業務が多いが、大きなミスはなく出来た。
- ③物品を購入する際も、値段の比較などをした上で購入した。消耗品の節約も含め継続していく。

3. 人材確保に向けた体制作り

- ①人材確保に向け求職者向けのパンフレットを作製した。

4. 地域貢献に向けた取り組み

- ①高齢者くらしのサポートセンターで、町内に住む独居高齢者への安否確認を実施している。
- ②地域活動の「つどいの和 りんりん」を1年間実施。(増田町老人憩の家にて毎週木曜開催)

5. 感染対策への取組み

- ①新型コロナウイルス感染予防として、出勤時の体温チェックや基本的な消毒等を継続している。
11月下旬に発生した新型コロナウイルスクラスターの際は、備品の手配、各フロアへの備品配達など現場スタッフの作業が軽減できるよう行った。

「施設管理部門」

1. 施設経費の状況を把握する

水道、各種電気、燃料の使用量及び金額の前年対比とその分析を継続する。
特に電気代は上昇傾向にある為、節電を継続する。

2. 車両関係

- ①人身に関わる事故はなかったが、車両事故が1件発生し、昨年度よりは1件減少した。事故の内訳は、単独物損事故が1件であった。
- ②数台の施設送迎車両が更新時期を控えているが、長期的な運用を考え車両の更新については前々から計画し、送迎等の業務に支障がないように実施した。

3. 設備の保守

- ①特殊技術や特殊工具使用等の設備、機器を除き、自前で修理出来るものについては実施し、経費削減に繋げた。また非常灯のバッテリー交換や溶接、特殊浴槽修理、車両リフトの不具合等、修繕に努めた。

4. 環境整備関係

- ①新型コロナウイルス感染予防の為、今年度においては全館の窓ガラス清掃を実施したが、館内フロアのワックス掛けは実施できなかった。
- ②芝生と植栽樹の維持管理を継続する。
前年同様に除草剤使用による雑草の抑制、芝生の刈り取り、石拾い等の管理をした。
- ③除雪について常に早めの作業に努め、安全かつ効率的な除雪を実施。除排雪中のけがや事故はなく、物損も発生しなかった。

5. その他

- ①インフラ整備面では、経年劣化により数か所で配管の漏水等による工事が必要となったが、日中出来ない水道や配管工事は夜間に行い、騒音が発生する作業は事前に周知した上で出来る限り利用者様の迷惑にならないように実施した。

< 各種委員会 総括 >

「行事委員会」

活動内容

6月：レクリエーションゲーム 8月：納涼祭（室内） 9月：打上げ花火、敬老会 2月：節分（豆まき）

- ・近隣の新型コロナウイルスの流行状況に配慮し、出来る活動を実施した。

前年度に続き施設内での活動に限られたが、縮小や形を変えながらも季節行事などを企画し、実行することができた。コロナ禍の施設生活において、一つでも多く行事を開催出来るよう、感染対策に配慮した室内の行事を模索した一年となった。今年度開催できた企画をもとに来年度も積極的に活動していきたい。

- ・外出行事を3年間実施出来ていない。感染症に十分注意し外出行事を行っていき、社会との関わりや、利用者様の気分転換を図っていく。

「給食改善検討委員会」

- ①個々に合った食事形態、食べやすさを考慮した食器等を多職種と検討し、食事形態やスプーンなどの自助具については利用者様に適した形で提供出来た。
- ②嗜好調査を行い、普段食事に関して感じていること・要望等を聞き取り、食事提供へと反映させることができた。
- ③各専門職が利用者様の日頃の声に耳を傾け、改善へ向けて活動することができた。

「家庭介護者教室運営委員会」

1. 今年度も新型コロナウイルスの影響により、ご家族を施設に迎えての教室を開催する事はできなかった。昨年度に続き、利用者様・ご家族へ向けて情報発信するお便りを3回発行した。第3回のお便りは、道の駅に設置する・“集いの和・りんりん”で配布する等、地域に向けて発信する事ができた。

内容については下記の通り。

第1回：職員紹介／食中毒について

第2回：乾燥による皮膚トラブル／バイタルサインを知ろう

第3回：お口の健康

感染症対策が緩和されつつあるため、次年度、教室を開催できるかどうかは検討が必要であるが、施設外への役立つ情報を提供できるよう活動していきたい。

「環境・サービス向上委員会」

1. 環境整備について

①各居室の消臭ビーズ交換を行った。今回は頃合いを見て行う事ができた。（コロナ蔓延期間は除く）

②下駄箱清掃を実施したが全職員が行ったとは言い切れない為、実施していない職員への促しをしていく。

2. サービス向上について

①ご家族アンケート

ご指導のお言葉については適切に改善していく。多くは暖かいお言葉を頂戴した。

通所アンケートは通常通り行えたが入所はアンケートの実施がコロナクラスターの為、中断となった。

②勉強会

前回できなかった資料を自己評価表と一緒に配布し、参考にして頂いた。介護課のみ接遇マナーと勉強会を合同で行った。

コロナ禍にて状況に合わせて勉強会を行えたら施行し、難しい時は資料のみ配布した。

「褥瘡対策委員会」

1. 褥瘡予防のためのケア用品の劣化は変わらず目立つが、各専門職種のアドバイスを受け現在あるケア用品をうまく活用したポジショニング方法を取り入れることで、重度の褥瘡を発生させることはなかった。ご利用者様の高齢化、医療依存度の上昇、コロナ下でのベッド上安静によるADLの低下が原因と思われる褥瘡の発生があったが、学習会の開催もできず介護職員のスキルアップへつなげることができなかった。今後は、日常生活で一番長くかかわりのある介護職員へ褥瘡発生防止に対する理解を高めてもらえるよう、委員会として対策していく。

「感染対策委員会」

1. 定期的な委員会の開催（毎月第2月曜日）、②日常の感染予防策の実施の状況の確認と修正については定期的に委員会にて確認している。
2. 感染予防対策マニュアルの見直しにより、当施設における具体的な行動（新型コロナウイルス等の感染症の施設内発生時の状況を検証、備品の管理）については、新型コロナウイルスの対応についての情報を確認しながら今後もマニュアルの見直し検討をしていく。
3. 集団での学習会は控えたため資料配布などで情報を提供した
4. 感染症対策の情報を確認し早期に対策を実施できるよう努めてきた。
 - 1 1月下旬に発生した新型コロナウイルスクラスターを経て新たに具体的に必要な対策や行動について再検討した。今後においても経験を活かし万が一の発生した場合に迅速に対応できるようにしていく。

「事故発生防止委員会」

1. 実施計画内容については概ね実施出来ている。ヒヤリハットの有効活用や各課との情報共有から個人へのアプローチについて、今後の課題としたい。

「事故発生状況」（前年度比）

転倒 41件（-12）：誤嚥 4件（+4）：誤薬 5件（+2）：皮膚トラブル 29件（-2）

経管トラブル 6件（+6）：異食 0件（±0）：その他 6件（-14） 累計 92件（-15）

※その他：フォーレチューブトラブル、転倒外の骨折、誤飲、禁止食の提供、服薬忘れ（時間ずれ）など前年度より事故発生件数が-15件と減少している。重大な事故を減少出来るように働きかけ、対応を行っていく。誤薬について、令和4年度は5件発生している。職員の不注意によるトラブルを減らす為には常に意識づけをしていかなければならない。慣れにより慢性的なケアにならない様に、今後も委員会等から定期的に働きかけていく。

2. 安全衛生については、各部署の危険箇所の確認や腰痛防止、メンタルヘルスへの取り組みが不足していた。今後は定期的に各部署の職場環境チェックを実施し、検討・改善に努める。
また、学習会等での全体周知も実施する。

「排泄改善委員会」

1. 在宅復帰者の排泄機能向上に重点を置き、委員会内で定期的な状態確認を行ってきた。各課の意見を元にご家族やご本人の意見に向けた支援策をスピーディーに現場へおとす事が出来たと思う。在宅という観点からポータブルトイレが有効であり、使用が集中してしまい絶対個数が足りない状況があった。今後はポータブルトイレの在庫管理と必要数の確保を検討していきたい。
2. 各ブロック排泄用品一覧表、汚染衣類調査表の分析考察を行い、失禁減少、職員の排泄介助スキル向上に努めていった。しかし失禁予防を口実に主観に合わせたパットの使用が目立ち、スキルの向上までには至らなかった。実践に伴った排泄介助の学習会を定期的で開催出来れば良かったのではないかと感じた。
3. 失禁予防への取り組みとして骨盤底筋トレーニングの定着を進めてきた。現在は2、3階共に全体での朝の体操内での実施、その他にも在宅復帰者の集中リハビリ内容に組み込み個別での実施も行えている。今後も内容を膨らませ継続していきたい。

「高齢者虐待防止委員会・身体拘束廃止委員会」

1. 委員会学習会を年に2回開催予定であったが、資料配布での開催に変更となった。
施設全体で虐待の知識を共有し、不適切なケアについて早期に発見改善できるよう委員より発信していきたい。
2. 身体拘束廃止について、身体拘束を実施する上での条件や廃止に向けた検討会を適宜行った。

「防災委員会」

1. 定期的な非常用物品の点検及び整理
備蓄庫及び施設内非常用物品の点検を実施した。また、電気火災予防として全館のコンセントを点検し埃の清掃作業を実施した。
非常用備品で不足している物品（カセットコンロ等）を購入した。
2. 消防設備、機器の把握と使用手順の周知徹底
避難訓練時に消火器及び屋内消火栓を使用しての消火訓練、非常放送設備での館内放送、自動火災通報装置での通報連絡及び物干し棒と毛布等を利用しての簡易タンカの作成訓練を実施した。
3. 全職員の避難訓練の参加により、火災発生時の対応を体得する。
年2回の避難訓練を実施し、できる限り訓練経験のない職員を優先して参加させている。
4. 年間防災計画に基づいた各種点検、訓練の実施
法定の消防設備点検を専門業者に依頼し機器点検及び総合点検を実施した。防災避難訓練を消防署指導の下、日中想定、夜間想定で2回実施した。

「経口摂取委員会」

1. 摂食嚥下障害を有する入所者や食事摂取に関する認知機能の低下が著しい入所者の経口支援の充実を図る。
 - ①他職種間での経口摂取に関するご利用者様ごとのリスクの共有と支援内容を検討した。
 - ②経口支援内容の決定と支援内容の見直しを実施。

研修・出張の実施状況

参加年月日	研修内容	場所	参加者
令和 4年 5月14日	秋田県介護支援専門員協会第1回研修会 「介護事業所の業務効率化と生産性の向上」	オンライン	石山 守
6月10日	県南地区介護支援専門員協会・令和4年度総会及び 第1回オンライン研修会	オンライン	石山 守 加瀬谷 彩
6月18日	第26回秋田県理学療法士学会 脳と心臓を巡る理学療法	オンライン	佐藤 舞
6月 4日	秋田県作業療法士学会	オンライン	高橋 克典
8月8日～11日	令和4年度介護支援専門員専門研修 専門研修課程Ⅱ及び更新研修	オンライン	奥州 佳奈子
8月20日～21日	臨床実習指導者の指導要項を学ぶため	オンライン	高橋 真友子
8月 1日～ 5日 16日～20日	令和4年度介護支援専門員再更新研修	オンライン	古谷 律子
10月21日	秋田大学医学部保健学科作業療法学専攻 令和4年度 臨床実習指導者連絡協議会	オンライン	佐々木 真澄
11月25日	福祉保健施設・事業者等事務職員研修	社会福祉会館	田畑 聡一郎
12月17日～18日	臨床実習指導者資格の取得	オンライン	菅原 葉留菜
令和 5年 2月 8日	令和4年度 短期集中通所型サービス事業所 意見交換会	サンサン横手	高嶋 美奈子

職員学習会の実施状況

【全課合同】

開催年月日	研修内容	参加人数
令和 4年 5月 23日	「高齢者虐待について」、「事故発生について」	41名
令和 4年 7月 25日	「施設内での感染症発生時の動きと感染対策について」、「身体拘束について」	43名
令和 4年 9月 26日	「非常災害時時の対応」、「職業倫理及び法令順守について」、「プライバシー保護の取り組みについて」、「両立支援について」、「介護事業者の接遇について」	29名
令和 5年 1月 28日	「介護におけるポジショニングとは」	24名

【介護課】

開催年月日	研修内容	参加人数
令和 4年 6月 8日	認知症について	6名
令和 4年 5月 28日	『介護における接遇』	13名
令和 4年 6月 27日	口腔ケアの手順・口腔ケア時の注意点	7名
令和 4年 8月 29日	誤嚥を防ぐポイント・窒息の原因と応急処置	5名
令和 4年 10月 31日	皮膚トラブルについて	7名
令和 5年 2月 28日	骨粗鬆症の理解と骨折時の対応	8名

【通所リハビリテーション課】

開催年月日	研修内容	参加人数
令和 4年 5月 18日	認知症について	8名
令和 4年 5月 25日	水銀血圧計による血圧測定について	9名
令和 4年 7月 27日	熱中症、熱中症対策について	9名
令和 4年 9月 30日	食札の見かたについて	13名
令和 4年 11月 23日	送迎時の事例検討と車の仕様について	10名
令和 5年 2月 22日	新型コロナウイルスの発生時の対応について	9名

【リハビリ課】

開催年月日	研修内容	参加人数
令和 4年 4月 21日	終末期リハビリテーション	8名
令和 4年 7月 6日	研修報告 ・秋田県作業療法士学会 「高齢者や認知症の人がより良い人生を継続するために」 ・秋田県理学療法士学会「脳と心臓をめぐる理学療法」	9名

※不参加職員には資料配布

年間行事計画の実施状況

実施年月日	行事名	場所	具体的目標	主な内容
令和 4年 4月 22日	和菓子提供	施設内	季節感を味わう行事を提供	季節の和菓子提供
令和 4年 8月 4日	和菓子提供	施設内	季節感を味わう行事を提供	季節の和菓子提供
令和 4年 8月 30日	屋内夏祭り	施設内	季節感を味わう行事を提供	射的・ピンボールゲーム 玉入れゲーム
令和 4年 9月 9日	花火大会	施設内駐車場	季節感を味わう行事を提供	花火鑑賞
令和 4年 9月 29日	敬老会	施設各フロア	長寿の表彰式 お互いの長寿と一緒に祝う	職員による出し物
令和 4年 10月 25日	和菓子提供	施設内	季節感を味わう行事を提供	季節の和菓子提供
令和 5年 1月 25日	和菓子提供	施設内	季節感を味わう行事を提供	季節の和菓子提供
令和 5年 2月 3日	節分行事	施設各フロア	他利用者との交流を深め、季節感を楽しんで頂く	利用者と一緒に豆まき

※コロナ禍のため外出行事はなし

「介護老人保健施設 りんごの里 福寿園」

慰問・ボランティア・実習等の状況

視察・慰問年月日	視 察 ・ 慰 問 者 名	備 考
令和4年 7月26日～7月28日	丹尾 蓮・高橋 莉々 (雄物川高校2年生)	通所リハビリテーション 職場体験
令和4年 9月20日～28日 10月3日～10月7日	県立衛生看護学院 (学生12名)	看護実習

防災計画の状況

令和4年 年間計画の実施状況

防災避難訓練（日中訓練）

実施日	参加者数	主な内容
令和4年6月24日 午後2時10分～3時15分	職員総数 21名 横手消防署南分署員 3名 セフティ 1名 利用者様 3名	通報連絡訓練 避難誘導訓練 消火活動に使用する設備・器具 の取扱い訓練 屋内消火栓操作法訓練

防災避難訓練（夜間想定訓練）

実施日	参加者数	主な内容
令和4年10月21日 午後2時10分～2時45分	職員総数 18名 横手消防署南分署員 3名 セフティ 2名 利用者様 6名	通報連絡訓練 避難誘導訓練 消火訓練 屋内消火栓操作法訓練

防災対策自主点検

保守点検	年 2回 (3月、9月)
自主点検	月 1回
防災点検	毎日1回

上記の点検等は令和4年度同様令和5年度も実施整備する。

令和4年度 グループホームひだまりの家 総括

昨年に引き続きコロナ禍の影響を受けた一年となった。入居者様の罹患が時期をずらし2度あり、そのうち1名は入院からの退所となった。もう1名は幸い軽症で症状もほとんどなく隔離期間を終了された。隔離にはいぶきユニットを使用した但那に当たった職員は夜勤日勤の形の勤務となり非常に負担を掛けてしまったが積極的な協力もあり他入居者様はもちろん対応職員も含め感染する事なくクラスターとはならなかった。

職員家族の新型コロナ罹患により複数の職員が出勤できないケースが何度かあったが、職員の協力により何とか乗り切る事ができた。

入退所に関して退所が前述の新型コロナ罹患による入院退所が1名、終末期対応による看取りが1件の2件であった。それに伴う入所が他施設から1名、りんごの里から1名であった。

職員の動きについては再雇用期間終了による退職が1名、りんごの里への異動が1名。入職が2名あった。

今年度は実地指導、地域密着型サービスの外部評価、介護サービス情報の公表が行なわれた。実地指導に関しては大きな指摘事項はなく契約書の文言等へ指導があった。外部評価に関しては、運営推進会議におけるご家族等の意見の汲み上げに対する方法について意見があがった。サービス情報の公表については訪問調査があったが提出通りの公表となった。コロナ禍による面会制限等にてホーム内へ外部の方が入る機会が少ない中、自らの行動や課題を振り返る良い機会となった。

地域文化祭が2年ぶりに開催され、ひだまりの家にも開催案内があり作品展示といった形で参加することができた。保育園や小学校の行事への参加が出来ない状況において地域との関わりを持つ貴重な機会となった。

入居者様の中には帰りたい気持ちを強く表出される方もおり、その対応に苦慮する場面も多々あった。普段よりご家族とお便りやお電話にて連携を密に行い、そういった感情が強くなった場合や兆候が見られた際は電話にて対応して下さるようご家族に事前に依頼し多数のご家族から了解を得られた。今後ご家族と協力しながら穏やかな生活を送って頂けるよう支援していきたい。

【 各種委員会関係 】

『食事・厚生委員会』

実績報告

1. 入居者様との外出が困難なため、生協に加え地域の八百屋や畜産業者への発注の機会が増えた。
2. 下処理や調理、後片付けなど積極的に入居者様に参加していただき有用感を感じていただく機会が持てた。
3. 期限切れなどで食材（特に野菜類）を無駄にしてしまう事があった。期限の確認と積極的に使用していく為、入居者様と相談しながら積極的に調理に取り組んでいけるようにしたい。

『企画委員会』

実績報告

1. 増田小学校や増田保育園に出向く機会を今年度も持つことが出来なかった。増田地域文化祭が再開されたことによって作品制作に取り組むことができた。

『環境美化委員会』

実績報告

1. 畑は職員有志が主となり取り組んだ。散歩の道中に収穫するなど入居者様に実施していただいた。
2. 今年度もプランターを使用し植物を生活の場の傍で携わっていただけた。

『事故発生防止委員会』

実績報告

1. 大きな怪我につながるトラブルはなかった。
2. 毎月の会議において入居者様の個別リスクを確認し対応について確認する機会を持った。

『業務改善・研修委員会』

実績報告

1. 内部研修は書面を配布し、アンケートや意見の汲み上げを行い参加できない職員に対しても働きかけることができた。
2. ヒヤリハットはカルテへの記載にて実施し負担軽減をしつつ情報共有できた。
3. 外部研修に職員を派遣することができなかった。

『広報・介護機器検討委員会』

実績報告

1. 「あがってたんせ」を発行することができなかった。
2. ひだまり通信は行事や普段の様子を写真に収めお伝えすることができた。

『感染対策委員会』

実績報告

1. 基本的な感染対策を実施し施設内に持ち込まない様にしていましたが、新型コロナ罹患者が出てしまった。しかし施設内での感染を防ぎ、他入居者様に感染することなく経過した。
2. 面会について昨年に引き続き風除室でのビニールカーテン越しの面会とし対応した。

『計画作成担当委員会』

実績報告

1. 入居者様、ご家族の要望を取り入れたケアプランが立案できた。昨年同様、ケアプランにご家族も資源として組み込むことで職員と共にひだまりの家での生活を支える存在であることが共有できた。

『高齢者虐待防止委員会』

実績報告

1. 学習会を開催し、高齢者虐待防止についての理解を深める事が出来た。
2. アンケートを実施し、自らの考えと他職員の考えを照らし合わせる機会が持てた。

『身体拘束廃止委員会』

実績報告

今年度、身体拘束を実施するケースは無かった。

1. 年2回の不適切なケアチェックの実施により自らの言動や行動を振り返る機会を持つことができた。
2. 学習会や会議を通して個々の対応を共有し不穏時等、適切な対応がとれた。

年間行事計画の実施状況

実施年月日	行事名	場所	具体的目標
令和 4年 4月17日 ～5月 7日	お花見ドライブ	増田町内 梨木公園 真人公園 大森面	入居者様の交流を図る。 季節を感じる行事の提供
令和 4年 5月19日 ～9月 7日	ドライブ	羽後町方面 増田町内 東成瀬村方面 山内方面 成瀬ダム	入居者様の交流を図る。 気分転換を図る。
令和 4年 9月 9日	屋外ランチ	敷地内	入居者様の交流を図る。 気分転換を図る。
令和 4年 9月19日	敬老会	ひだまりの家内	入居者様の交流を図る。 季節を感じる行事の提供
令和 4年 9月24日 ～9月25日	ドライブ	東成瀬方面 稲川方面	入居者様の交流を図る。 気分転換を図る。
令和 4年10月16日 ～11月26日	紅葉ドライブ	稲川方面 山内方面 横手方面 東成瀬方面 成瀬ダム 羽後町方面 ジュネス栗駒 天正の滝 横手城	入居者様の交流を図る。 季節を感じる行事の提供
令和 4年12月28日	餅つき	ひだまりの家	入居者様の交流を図る。 季節を感じる行事の提供
令和 5年 2月15日 ～2月16日	ドライブ	浅舞方面 醍醐方面 十文字方面	入居者様の交流を図る。 気分転換を図る。

「グループホーム ひだまりの家」

慰問・ボランティア・実習等の状況

視察・慰問年月日	視 察・慰 問 者 名	備 考
	新型コロナウイルス感染対策の為、実績無し。	

防災計画の状況

令和4年度 年間計画の実施状況

防災避難訓練（日中訓練）

実 施 日	参 加 者 数	主 な 内 容
令和 4年 6月24日 午後1時30分～1時45分	職員総数 7名 羽後電設 1名 横手消防局南分署員 3名 利用者様 7名	消火訓練 通報連絡訓練 避難誘導訓練

防災避難訓練（夜間想定訓練）

実 施 日	参 加 者 数	主 な 内 容
令和 4年10月21日 午後1時30分～1時45分	職員総数 6名 羽後電設 1名 横手消防局南分署員 3名 利用者様 8名	消火訓練 通報連絡訓練 避難誘導訓練

防災対策自主点検

保守点検	年 1回 (3月)
------	-------------

上記の点検等は令和4年度同様令和5年度も実施整備する。

令和4年度 グループホームひなたの家 総括

今年度も新型コロナウイルスの収束の気配がなく、昨年度同様感染対策を継続しながらホーム内での活動の充実に重点を置き取り組みを行った一年であった。

その中で9月末に新型コロナウイルス感染症が発生したことがあげられる。面会等の外部者の立ち入りの中止や外出の自粛、ホーム内での感染予防等十分な感染対策を講じてきたはずであったが、職員からの感染を防ぐことが出来なかった。入居者様及びご家族には多大なご迷惑とご心配をおかけする事態となってしまう大変残念に思う。新型コロナウイルス感染者の対応はすべてが初めてのことであり戸惑うことが多かったが、りんごの里や訪問看護のサポートを受け、対応としては完全なゾーン分け、陽性者対応職員の固定等を行ったところ感染者は入居者様4名にとどまり、重症者は発生しなかった。全員に拡大することなく2週間ほどで無事収束することが出来た。リスクの高いレッドゾーンの業務を引き受けてくれた職員、その他すべての職員の協力に感謝したい。

昨年9月に実地指導があり、契約書の文言について口頭での指摘があったが、それ以外で改善が必要な事項はなく、適切に運営されているとの評価をいただいた。今後も継続して書類整備と適正な運営に努めていきたい。

今年度は救急搬送が4回あり、例年になく緊急対応の多い年であった。その内入院退居が2名、その他の2名の方は復帰されている。入居については在宅からの入居が2名あり、2名とも入居受け入れ可能となってから入居の日まで要した日数が多かった。2件ともご家族の都合でやむを得ないことではあったが、今後も情報収集を行い、速やかな空床解消に努めていきたい。

今年度も外出自粛のためホーム内の余暇活動の充実に努めた。入居者様本位に検討された職員発案の企画や入居者様希望のイベントを開催し、件数は昨年度より9件増え54件であった。誕生会や歓迎会等を含めると65件以上にのぼる。職員自身も楽しみながら実施しいずれも好評であった。これからも入居者様のストレスの軽減、気分転換を図り楽しみの提供に取り組んでいきたい。

現在の新型コロナウイルスの感染状況は、少しずつ落ち着いてきているものの、感染対策自体は変わらない内容で継続している。状況をみながら、感染対策をしつつ入居者様の意向に沿えるサービスの提供ができるよう努めたい。そして状況が改善した時にはグループホーム本来の活動を十分に行えるよう備えたい。

【 各種委員会関係 】

『事故発生防止委員会』

実績報告

- ①毎月の集計を行い、集計表を作成し、回覧していたが呼びかけは少なかった。
- ②会議や勉強会で事例検討を行い、その内容を回覧し、内容の周知を図った。
- ③ひやりはっとの対応策について検討はしていたが、全員では行えなかった。
- ④これまで発生した事故について原因、対応策についての再確認を行うことが少なかった。
- ⑤その月に発生した事故については原因や対応策を再確認し、その内容を周知し、再発防止に努めた。

『食 事 委 員 会』

実績報告

- ①状態に合わせた食事形態については、対応の統一を行い提供できていた。
- ②行える方には積極的に参加していただけたが、献立を入居者様に考えていただく機会は少なかった。行えない方への配慮も少なかった。
- ③行事等を通して季節感への演出はできていた。
- ④消費に苦勞するものもあったが、全体的には日付に応じて消費できていた。
- ⑤費用対効果に応じた食事提供ができていた。
- ⑥行事に合わせたメニュー作りを行い、楽しみのある食事提供ができた。
- ⑦誕生会では、ご本人から好みのものを聞きとり、食事に取り入れることができた。

『行 事 委 員 会』

実績報告

- ①当日の計画は立案できていたが、必要なものの買い出しの日程等の申し送りがされておらず、直前に行くことがあった。
- ②会議で翌月の行事の担当の確認をし、働きかけを行った。
- ③進捗状況の確認が不十分で、予定日が迫ってからの企画になったことがあった。また、使用物品の後片付けの係が決まっておらず、いつも特定の人がやってくれることがあり、負担になっていた。今後は担当で計画の段階で役割分担を決め、最後の片づけまできちんと行えるようにしていく。
- ④職員から意見を募り、行事の充実を図ることができた。

『計画作成委員会』

実績報告

- ①入居者様、ご家族の要望を反映させたケアプランを作成した。
- ②会議で更新のケアプランについて、変更部分等について説明を行い、内容の周知に努めた。
- ③状態にあったプランの見直しがなかなか行うことが出来なかった。
- ④更新時は全員から意見を募り、支援方法については会議棟で検討し、プランにいかせるように努めた。

『広報委員会』

実績報告

- ①ひなたの家の取り組みだけでなく、認知症についての情報を必ず取り入れ発行している。地域の方々に認知症やグループホーム、ひなたの家への理解を深めていただけるような内容とした。
- ②地域の方から直接電話をいただき、「ひなたぼっこ」について大変評価していただいた。これからも認知症についての知識の還元を行い、ひなたの家の活動の充実を図り、それを発信していけるようにしていきたい。

『感染対策委員会』

実績報告

- ①勉強会を開催し、感染症について再確認を行った。
- ②対策を行っていたが、昨年10月に市に新型コロナの感染症が発生してしまった。万が一の場合はその経験を活かしてしっかりと対応していきたい。そうなる前の、手洗い、消毒、うがい、咳エチケット等の予防をしっかりと行っていきたい。
- ③入居者様、職員ともできるだけ三密を避けるようにしていた。冬場の換気がなかなか難しかった。手すり消毒は毎日しっかりと行っている。汚物やポータブルトイレの中身の衛生的な持ち運びは対応を改善し、守られている。

『環境美化委員会』

実績報告

- ①居室清掃について、リネン交換時または午後の時間帯にモップがけを行うことができた。可能な入居者様には一緒にリネン交換および居室掃除を行っていただいた。フロアの掃除についてその日の状況によって全部できないこともあったが、できることは行うように心掛けた。
- ②コンセント掃除、大掃除については年に一回しか行うことができなかった。どちらも早めに呼びかけ、年2回できるようにしていきたい。
- ③冷蔵庫掃除は週一回行うことができた。
- ④苗植えは、全入居者様に行っていただき、喜びを共有できた。収穫については、真夏の暑い時期になるため可能な入居者様に限られたが、収穫を一緒に行う事が出来た。
- ⑤散歩時に作物や花の生育の観察を行うことが出来た。
- ⑥新たな壁画制作は行えなかったが、前年の壁画をアレンジして飾り、季節を感じていただくようにした。書道の文字も季節にあったものを選んで書いていただき、ぬり絵とともに廊下に展示し達成感を感じていただけようようにした。
- ⑦十分ではなかったので実施月(奇数月)を決めて、実施できるよう呼び掛けていく。

『身体拘束廃止委員会』

実績報告

- ①毎月チェック項目を各自チェックし、不適切なケアが発生しないよう努め、身体拘束や虐待は発生しなかった。
- ②年二回勉強会を開催し、「身体拘束廃止」について学ぶ機会を作った。事例研究も行き、「身体拘束廃止」「虐待防止」についての理解を深めた。
- ③委員会は三か月に一回開催でき、その内容を回覧し、周知できた。日常のケアで起こった事例を会議で検討、適切なケアについて考える機会を作り、実際にケアにそれを役立てることが出来た。

年間行事計画の実施状況

実施年月日	行事名	場所	具体的目標
令和 4年 4月17日	お花見ドライブ	真人・梨木公園	季節感を味わっていただく
令和 4年 4月23日	春の運動会	ひなたの家内	入居者様同士の交流を図る 体を動かす機会の確保
令和 4年 5月 4日	そばの日	ひなたの家内	好まれるものを食べて満足感を感じていただく
令和 4年 5月19日	花と野菜の苗植え	ひなたの家内	季節感を味わっていただく 入居者様同士の交流を図る
令和 4年 5月22日	洋食の日 マジックショー	ひなたの家内	好まれるものを食べて満足感を感じていただく 職員の余興を楽しんでいただく
令和 4年 6月21日	アフタヌーンティー パーティー	ひなたの家内	装飾やメニューを通してカフェの雰囲気を楽しんでいただく
令和 4年 7月 2日	あやめ見物	浅舞公園	季節感を味わっていただく
令和 4年 7月 6日	七夕行事	ひなたの家内	季節感を味わっていただく
令和 4年 7月13日	バーベキュー	ひなたの家 敷地	好まれるものを食べて満足感を感じていただく 季節感を味わっていただく
令和 4年 8月 3日	すいか割り	ひなたの家内	すいか割りを楽しみながら季節のものを味わい満足感を感じていただく
令和 4年 8月 6日 7日	七夕絵どうろう見物	湯沢市	季節を感じていただき、気分転換を図る
令和 4年 8月29日	ひなたの家納涼祭	ひなたの家内	食事や余興を楽しんでいただき、気分転換を図る
令和 4年 9月 9日	打ち上げ花火見物	ひなたの家 敷地	季節の風物詩を楽しんでいただく
令和 4年 9月10日	中秋の名月	ひなたの家内	季節感を味わっていただく 入居者様同士の交流を図る
令和 4年 9月15日	敬老会	ひなたの家内	職員から日頃の感謝を伝え、長寿を祝う
令和 4年10月25日 令和 4年10月29日 11月 4日	紅葉見物	狙半内方面 東成瀬方面	季節を感じていただき、気分転換を図る

実施年月日	行事名	場所	具体的目標
令和 4年11月13日	アフタヌーンティー パーティー	ひなたの家内	食事を通して季節感を味わっていただく
令和 4年11月23日	収穫祭	ひなたの家内	旬の食事をとおして季節を感じていただく 職員の余興を楽しんでいただく
令和 4年12月 4日	大声コンテスト	ひなたの家内	大きな声を出してストレスを発散していただく
令和 4年12月16日	カラオケ大会	ひなたの家内	歌を楽しんでいただくことで気分転換を図る
令和 4年12月22日	冬至 ゆず湯	ひなたの家内	食事や入浴を通して季節感を味わっていただく
令和 4年12月24日	クリスマス会	ひなたの家内	季節感を味わっていただく 入居者同士、職員と交流を図る
令和 4年12月28日	忘年会	ひなたの家内	食事や余興を楽しんでいただき、 気分転換を図る
令和 4年12月31日	年越し行事	ひなたの家内	季節感を味わっていただく
令和 5年 1月 1日 ～5日	お正月行事	ひなたの家内	季節感を味わっていただく
令和 5年 1月21日	新年会	ひなたの家内	季節感を味わっていただく 職員の余興を楽しんでいただく
令和 5年 1月23日	洋食の日	ひなたの家内	好まれるものを食べて満足感を感じていただく
令和 5年 2月 3日	節分行事	ひなたの家内	季節感を味わっていただく
令和 5年 2月11日 12日	犬っこ祭り見物	ひなたの家内	季節感を味わっていただく
令和 5年 2月14日	バレンタインデー 茶話会	ひなたの家内	好まれる甘いものを食べて満足感を感じていただく
令和 5年 2月15日	かまくら見物	横手市内	季節感を味わっていただく
令和 5年 3月 3日	ひな祭り行事	ひなたの家内	季節感を味わっていただく
令和 5年 3月15日	鍋の日 マジックショー	ひなたの家内	季節感を味わっていただく 職員の余興を楽しんでいただき気分 転換を図る

「グループホーム ひなたの家」

慰問・ボランティア・実習等の状況

視察・慰問年月日	視 察・慰 問 者 名	備 考
	<u>新型コロナウイルス感染対策の為、実績無し。</u>	

防災計画の状況

令和4年度 年間計画の実施状況

防災避難訓練（日中訓練）

実施日	参加者数	主な内容
令和4年6月24日 13時50分～14時5分	職員総数 6名 利用者様 6名 横手消防署増田署員 4名 セフティ 1名	消火訓練 通報連絡訓練 避難誘導訓練

防災避難訓練（夜間想定訓練）

実施日	参加者数	主な内容
令和4年10月21日 13時50分～14時00分	職員総数 7名 利用者様 8名 横手消防署南署員 3名 セフティ 1名	消火訓練 通報連絡訓練 避難誘導訓練

防災対策自主点検

保守点検	年 1回 (9月)
------	-----------

上記の点検等は令和4年度同様令和5年度も実施整備する。

令和4年度 ショートステイ ラ・ボア・ラクテ 総括

1. ①利用者の状態やニーズは年々多様化しているが、利用者毎に情報を的確に把握しながら個別性の高いサービス提供が行えている。特に機能訓練ではニーズや状態に合わせて個別リハビリを実施し身体機能維持・向上、在宅生活の継続・再開に繋げることができている。在宅復帰の件数が増えてきており、今後もより地域に於けるショートステイの役割が果たせるよう関係機関との連携を密にしながら利用者の望む生活が送れるように支援したい。
②新型コロナウイルス予防の為、今年度も対外的な催しや、オンライン以外の外部研修参加を中止した。家庭介護者教室においては、代わりに家庭でできる体操などをまとめたリーフレットを作成し、配布を行った。今後も感染症の予防に努めながら、研修や勉強会を通しての自己研鑽、情報の内容・発信方法を再度検討し、状況にあわせて対応していきたい。
③住み慣れた地域や自宅を中心に本人らしい生活が送れるように、利用者一人一人の状況に応じて各部署及び関係機関等と連携を深め支援することができた。また、新型コロナウイルス感染症禍であるものの、機能訓練や行事により特色を持たせることで、利用者の社会参加や身体機能維持・向上に努めることができた。今後も施設の特色とサービス提供がより充実するよう努めたい。
2. ①目標管理シートの作成、技能チェックリストを職員全員が行い、目標を定め、自己評価を行った。さらに自己評価に対して上司評価を行うことですり合わせができ来期の目標設定やモチベーションの維持・向上に繋げることができた。今後も評価の内容を踏まえ更に専門知識や技術の向上を図り職員一人一人が役割を持ちながら施設全体がレベルアップできるように努めたい。
②今年度も新型コロナウイルス感染症予防の為、オンライン以外の外部研修への参加は中止とした。来年度は感染症予防に努めながら外部研修への参加再開と、内部研修を充実させ、スキルアップに努めていきたい。
③各部署会議、定期カンファレンス、朝カンファレンス等を通じて、利用者課題を共通認識、把握しながら、生活の質を向上させるためのサービス提供を行えている。また、現状維持ではなく、サービスの質の向上、職場環境の充実を図るため、適宜業務改善等を行っている。今後も継続して職員全員が長く勤務することができる施設づくりに努めたい。
3. ①事前訪問、ケアカンファレンス、サービス担当者会議を通じて、ニーズを的確に把握し、各専門職がサービス提供できた。コロナ禍でなかなかコミュニケーションやモニタリングが行えていない状況であったが、情報の伝達、共有を密にして信頼関係を構築することができた。
②事前訪問調査、ケアカンファレンス、サービス担当者会議を通じて、利用者の生活課題や援助方針を的確に把握しながら、各専門職が果たす役割を明確にできている。今後の課題としては、実施したサービス提供が効果的であったかモニタリング・アセスメント力を身に付けられるように検討していきたい。
③コロナ禍で外出や、密となるレクリエーションはなかなか実施できていないものの、フロアの特色や季節に応じた活動が実施できている。
しかし、今年度後半はレクリエーションプログラムの活動が行えなかった為、来年度は定期的にレクの日を持ち、手芸・運動・映画鑑賞など様々な活動を提供し、利用者交流、心身のリフレッシュ、生活意欲の向上に繋げていきたい。

4. 年2回の防災訓練を城東消防署と連携し安全に配慮しながら行うと同時に避難経路や避難方法の見直しも行い、円滑な有事対応を検証することができた。また防災用品の再検討や補充を行うことと人員変動に伴った防災マニュアル及び消防計画の見直しができている。緊急連絡訓練の実施も年2回行うことができおり、有事の際に円滑な対応が行えるよう継続した取り組みを行っていきたい。

5. 新型コロナウイルス感染症のクラスター発生の為、衛生用品、消耗品費等の購入が急増した。また、電気代高騰や物価上昇により支出が増加した。今後も支出増加が予想されるが、削減可能な部分を見出し支出を抑えられるよう努めたい。

【各種委員会関係】

『給食改善検討委員会』

実績報告

- ①利用者様からの意見をもとに嗜好を考慮し、食べづらい食材を控え、メニューの変更や廃止等、献立にできる限り反映するよう取り組んだ。利用者の状態が日々変化していくため、厨房業者と情報共有を密にすることで、個人対応や食形態等、より良い食事の提供に努めた。
- ②カンファレンス時や日頃の生活の中で気になったことを職員間で情報共有し、個人に配慮した食事の提供ができるよう取り組んだ。利用者様からの直接の声、職員からの状況報告をもとに話し合い、新たな個人対応や形態の変更等、改善に努めた。食事摂取量が少ない利用者様については職員と相談して対応を考えた。
- ③四季を考慮した行事食を提供するとともに、利用者様が参加する「おやつ作り」に取り組んだ。今年は新型コロナウイルスの影響により、「おやつ作り」の開催が延期や中止になることが多かった。行事食はいつもと違うお食事でとても好評だった。各職員で連携しながら前年度の改善点をもとに計画を考えて実施することができた。

次年度も衛生管理を徹底し、安心安全な食事の提供に努めたい。また、嗜好調査や家族アンケートの意見等、改善点を踏まえながら新たな取り組みに挑戦し、より良い食事を提供していきたい。

『家庭介護者教室運営委員会』

実績報告

コロナの影響が長期化し、前年度に引き続き各ご家庭へのリーフレット配布という形での活動。年2回のリーフレット配布予定ではあったが、施設内のコロナ蔓延や内容の変更に時間を要し、翌年度へ繰り越してしまった反省点あり。制限のある状況が続く中に於いては、ペーパーによる活動を継続する事とする。リーフレットは、年2回を目標に作成・郵送とする。次年度は、テーマ内容をフロアごと等にワークシェアリングし、より多くの情報を集めた上で資料の作成を試み、精査し各ご家庭へ介護に於ける参考資料の提供に努める。

『行事委員会』

実績報告

令和4年度は新型コロナウイルスの影響により外出行事、竿燈慰問を除いた慰問行事は行えなかった。また、中には延期や中止になった行事もあったが行われた行事はどれも好評で利用者様には楽しんでいただけた。行事全体を通して、マスク着用、消毒、必要に応じて手袋の着用等、感染対策を行ったうえで事故などもなく安全に各行事を終えられた。今期で行われた行事で出た課題は来期で行われる行事に反映し改善していく必要がある。行事内容もマンネリ化しつつあり同じ行事でも内容の変更や今まで行った事のない行事を検討し、利用者様により楽しんで頂けるよう今後取り組んでいきたい。

『広報委員会』

実績報告

5月、8月、11月、2月の3ヶ月に1回のペースで広報誌を発行した。季節に合わせた行事や新たに試みた行事の様子その他、栄養士主催のボア喫茶の様子など、ラ・ボア・ラクテならではの取り組みを掲載し、施設の特色を周知した。

また、コロナ禍でなかなか会うことのできないご家族へ広報誌を通じて施設での利用者様の様子を伝えることができた。

次年度も施設の取り組みや特色を多くの方に知って頂けるよう、見やすく分かりやすい広報誌の作成と、ホームページを活用した迅速な情報発信を行うよう努めたい。

『感染対策委員会』

実績報告

①月1回委員会を開催し、秋田県内・市内感染状況の共有と、フロア毎に換気などの感染予防対策の実施状況について確認した。昨年度より換気に対して職員の意識向上がみられた。感染予防行動の啓発として、感染委員でガウンテクニック動画を作成し、ケアサポート課職員全員に対してガウンテクニックの確認を行った（2回/年）。ガウンの着脱は初めての職員が多かったため、事前に取り組んでいたことでクラスター時にもガウン着脱が出来たと考える。委員内で実際に行わないと忘れてしまうという意見もあった為、来年度も継続して取り組んでいきたい。

②今年度施設内でコロナウイルス感染症のクラスターが発生した。終息後に委員会で振り返りを行った。実際に経験して初めて気づけたことや各職種の動きについて知ることが出来た。反省点を踏まえマニュアルの改訂を行った。発生時の初動が肝心だと感じたので、来年度は発生時の訓練を行いたい。

③今年度はコロナウイルス感染マニュアルを5月・1月に改訂、嘔吐マニュアルの改訂を行った。嘔吐マニュアルは勉強会を行い周知に努めた。

④今年度はノロウイルス・白癬についての勉強会を行った。どちらも身近な感染症であり、実施後のアンケートでも高評価をいただくことが出来た。来年度も職員が学びたいことについて意見を聞きながら勉強会を開催したい。

『褥瘡対策委員会』

実績報告

月1回委員会を開催し、利用者様のADL・褥瘡状況などの情報共有とベッドマットが適切か評価を行った。褥瘡を繰り返す・ADL低下している利用者様に対してベッドマットの変更を行い、褥瘡改善することが出来た。またフロア職員の協力もあり、体調の悪化に応じて体位交換を行うことが出来た。来年度は除圧マットが2種類追加となり、さらにリスク状態に応じたマットの選択が可能になるので、適切なマットを選択し、褥瘡予防に努めていきたいと考える。

今後も利用者様が安楽に過ごせるように利用者様一人一人に適したポジショニングやケアを実施していきたい。

『身体拘束廃止委員会』

実績報告

- ①利用者様一人一人の安全の確保と尊厳を保持する為、個々に適したセンサーの設置を行い、適正について都度評価をする事ができた。不必要なセンサーを設置していないか、故障や不具合がないか等を日々確認し、又月1回委員会後に確認作業を実施した。
物理的な要因だけでなく、心理的要因にも目を向け、利用者様の心のケアに力を入れる事ができた。スピーチロックや不適切な声掛けがないか、委員会を中心に観察し、会議内での啓発を積極的に行う事ができた。
- ②今年度も身体拘束ゼロであった。
緊急時やむを得なく、身体拘束が必要になった場合に備え、身体拘束解除に向けての取り組みなど委員会や勉強会を通して確認を行った。
身体拘束ゼロ、廃止に向け、又それを必要としない介護を行っていく為、ご利用者様の状態の把握に努め、情報共有を徹底していく。
- ③施設内の研修については委員会主催で勉強会を実施する事ができ、身体拘束の振り返りや更なる知識の習得を図る事ができた。昨年度同様、施設外の研修は新型コロナウイルスの影響により、参加する事ができなかった。

『安全衛生管理委員会』

実績報告

福祉用具の安全点検を年2回実施し、必要箇所は修繕を行っている。福祉用具以外の建物関係についても適宜点検・修繕し労働災害の防止に努めた。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、衛生面、労働環境面での対応について検討を行った。また、メンタルヘルスケアについての情報発信を行い精神面のケアにも努めた。今後も状況に合わせた対応方法の検討を行っていきたい。

『高齢者虐待防止委員会』

実績報告

- ①②前年度同様、虐待の予防、不適切な介護の防止として、委員会主催での勉強会の実施、委員会会議内での職員への啓発、知識の習得に努める事ができた。身体的な部分だけでなく、心理的な部分にも焦点をあてる事ができ、今年度、施設内外での虐待は認められなかった。
介助中にできたと思われる内出血斑、原因を特定する事が難しい内出血斑が多数あった。
虐待と疑われる事がないように原因の把握、適切で安全な介助方法の周知と対応策の徹底を行っていく。
職員のストレス把握の為、ストレスチェックを実施している。大きな変化はみられていないが、職員の精神状態の変化の把握は今度も継続して行っていく必要がある。
虐待の早期発見の為、利用者様の状態把握、送迎時の観察を行う事を発信していく事ができた。引き続き、観察を行っていく。

③施設内の研修については委員会主催で年1回勉強会を実施し、個々の知識の習得と理解を深め、啓発を行う事ができた。

昨年度同様、施設外の研修は新型コロナウイルスの影響により、参加する事ができなかった。次年度はオンライン研修等への参加を積極的に行い、知識の習得に繋げていきたい。

『事故発生防止委員会』

実績報告

1、①前月の各部門で挙げたヒヤリ・ハット、気づき報告の周知と、前月事故の集計・分析、1か月前の事故の対応策についての振り返りを行った。今年度の事故発生件数、及び前年度比については下記の表を参照。事故件数の累計は148件で前年度より13件減少している。前年度最も多く発生していた転倒・転落は11件増加。その他、皮膚トラブルやチューブトラブル等、すべての項目で減少傾向になっている。転倒・転落に次いで多かった皮膚トラブルは前年度までは増加傾向が続いていたが、前年比で6件減少となっている。皮膚状態が脆弱な方が多く、発生しやすい状況に変わりはないが、介助方法の見直しや適切な福祉用具の活用を継続した事で減少傾向に転じている。チューブトラブルや誤薬関係の事故に関しては不注意が多く、日常的な対応を実施できていれば未然に防げる内容が殆どだった。全体的に見れば不注意の事故が前年度から減少しているが、内容的には職員の過信や不注意によるものが多く、今後も日常的な対応がしっかりできているか確認が必要。

事故の発生場所としては、前年度同様、居室内が一番多く、次いで食堂、廊下となっている。廊下でのトラブルは前年より9件増加しており、歩行時の転倒や突発的な行動からの転落が多く発生している。居室内でのトラブルは減少しているが、全件数の半数近い数になっており、居室内のリスク把握や環境整備など、より個々にあった対応策が必要と感じている。センサー使用者も多く、定期的にADLに合ったセンサー利用が出来ているか見直している。

今後も介護技術を含む統一对応を定着させ、各職員のトラブルに関する意識向上を進めていく。日々の生活の中で、ヒヤリ・ハット、気づき報告の積極的な記入やトラブル対応策に対する定期的な見直しを継続して、意識、観察力向上につなげていく。

	転倒 転落	誤薬	皮膚 トラブル	チューブ トラブル	誤嚥	その他	累計
今年度	66件	3件	40件	5件	1件	33件	148件
前年度比	+11件	-5件	-6件	-6件	-2件	-5件	-13件

②新規採用者には、事故防止のための当施設の取り組みである、ヒヤリ・ハットの運用、気づきの報告書について周知。学習会の開催については、感染対応の事情により開催できなかったが、「事故発生予防と再発防止」については、月々の発生状況資料の配布や委員を中心に再カンファレンスの実施により、各職員の観察力や意識の向上に繋がられたと思う。「緊急時の対応（応急処置など）」については、実施できなかったのが次年度で行ってきたい。

③新型コロナウイルスの予防の為、外部研修等への出席は控えた。

2、大きな紛争に発展した事例はなかった。

研修・出張の実施状況

【ショートステイ ラ・ボア・ラクテ】

参加年月日	研修内容	場所	参加者
8月29日	産業保健セミナー「メンタルヘルスの基礎」	オンライン	渡部 祥子
9月14日、10月19日	令和4年度介護施設等看護実務者研修	オンライン	櫻庭 亜矢子
9月22日	雇用管理責任者講習「今さら聞けない労働法の超基本」	オンライン	堀井 志穂
10月18日	秋田県介護サービス事業所認証評価制度公開講座「認証評価制度と処遇改善等加算」	オンライン	渡部 祥子 田中 奈留美
12月6日	第1回福祉サービスに関わる苦情解決研修会 初級編	オンライン	伊藤 美波
2月22日	令和4年度福祉・介護事業所採用力アップセミナー	オンライン	渡部 祥子
2月28日	第2回福祉サービスに関わる苦情解決研修会 上級編	オンライン	田中 奈留美

職員学習会の実施状況

【ラ・ボア・ラクテ】

開催年月日	研修内容	参加人数
令和4年 6月29日	食中毒について	11名
10月6日	職業意識とコスト意識について	11名
10月20日	高齢者虐待防止に関する出前講座	9名
令和5年 2月14日	ノロウイルス・水虫（白癬）について	8名
2月21日	個人情報保護・法令遵守・倫理について	9名
3月20日	看取り介護と精神的ケアについて	9名
3月29日	腰痛の原因とセルフケアについて	7名

令和4年度年間行事計画の実施状況

実施年月日	行事名	場所	具体的目標	主な内容
令和4年4月5日 4月6日 4月7日	春のいちご行事	施設各フロア	季節感を味わう行事の提供 他利用者との交流を図る	お菓子の提供とレクリエーション
令和4年5月4日～6日	菖蒲の湯行事	5階浴室	季節感を味わう行事の提供	菖蒲湯に入浴
令和4年5月10日 5月11日 5月12日	ケーキバイキング行事	施設各フロア	数種類のケーキから選んで いただく楽しみを提供	ケーキバイキングの実施
令和4年5月8日	母の日行事	施設各フロア	女性利用者へ感謝を伝える 他利用者との交流を図る	花・メッセージカード贈呈
令和4年6月19日	父の日行事	施設各フロア	男性利用者へ感謝を伝える 他利用者との交流を図る	花・メッセージカード贈呈
令和4年6月15日 6月16日	開設記念行事	施設各フロア	施設の開設日をお祝い	抹茶・お茶菓子の提供とレクリエーション
令和4年7月5日	夏祭り	施設各フロア 5階食堂	他利用者との交流を図る 祭りを開催し非日常的な時間を過ごす	催し物 屋台
令和4年7月16日	竿燈慰問行事	正面玄関	地域の機関と交流を図る	慰問
令和4年8月9日 8月10日	すいか割り行事	施設各フロア	季節感を味わう行事の提供 他利用者との交流を図る	すいか割りの実施
令和4年8月30日	花火行事	西側駐車場	季節感を味わう行事の提供	花火の実施
令和4年9月21日	敬老会	施設各フロア	利用者の長寿を祝う	長寿の表彰 記念品の贈呈
令和4年10月12日 10月13日 10月14日	BBQ行事	施設各フロア	季節感を味わう行事の提供	食事・ドリンクの提供
令和4年10月31日	ハロウィン行事	施設各フロア	季節感を味わう行事の提供 新しい文化に触れ刺激を受けていただく	職員の仮装 お菓子の提供
令和4年12月6日 12月7日 12月9日	鍋行事	施設各フロア	季節感を味わう行事の提供 他利用者との交流を図る	だまご鍋調理
令和4年12月21日 ～23日	冬至(ゆず湯)行事	5階浴室	季節感を味わう行事の提供	ゆず湯に入浴

令和4年12月26日	クリスマス会	施設各フロア	季節感を味わう行事の提供	演奏披露
令和4年12月29日 12月30日	もちつき行事	施設各フロア	季節感を味わう行事の提供 他利用者との交流を図る	もちつきの実施
令和5年1月4日	新年会行事	施設各フロア	季節感を味わう行事の提供	職員による出し物の実施
令和5年2月3日	節分行事	施設各フロア	他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供	豆まきの実施
令和5年2月14日 2月15日 2月16日	バレンタイン 行事	施設各フロア	他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供	チョコフォンデュ の実施
令和5年3月2日 3月3日 3月6日	ひな祭り行事	施設各フロア	数種類のケーキから選んで いただく楽しみを提供	ケーキバイキング の実施
令和5年3月14日 3月15日 3月16日	ホワイトデー 行事	施設各フロア	他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供	どら焼き作りの実 施

慰問・ボランティア・実習等の状況

視察・慰問年月日	視 察 ・ 慰 問 者 名	備 考
令和4年 7月16日	駅東竿燈会 様	竿燈実演 慰問
10月5日・6日 12日・13日 19日・20日 26日・27日	秋田県歯科医療専門学校 様 " " "	介護職員初任者研修の実習 " " "
11月9日・10日 16日・17日	" "	" "

防災計画の状況

令和4年度 年間計画の実施状況

防災避難訓練(夜間想定)

実施日	参加者数	主な内容
令和4年6月29日 午後2時00分～2時30分	職員総数 20人 利用者様 42人 猿田興業株式会社 1人 城東消防署 3人	消火活動に使用する設備・器具の取扱い訓練 消火訓練 屋内消火栓の扱い方 通報連絡訓練 避難誘導訓練

防災避難訓練(日中想定)

実施日	参加者数	主な内容
令和5年3月1日 午後2時00分～2時25分	職員総数 21人 利用者様 3人 猿田興業株式会社 1人 あきたすてらクリニック 2人	屋内外消火栓の扱い方 通報連絡訓練 避難誘導訓練 消火訓練

防災対策自主点検

保守点検	年 2回 (5月、11月)
自主点検	年 1回
防災点検	毎日1回

上記の点検等は令和4年度同様、令和5年度も実施整備する

令和4年度 居宅介護支援センター 総括

今年度においては、近隣のコロナウイルス感染症蔓延に伴って利用調整や利用制限に対する調整という類例のない対応に追われた年度であり、かつ、BCP（事業継続計画）の必要性を実感した年度であった。この経験を活かし、経過措置中ではあるが義務付けされているBCP策定を行うことができた。事業運営については、新規のケースはすべて受け入れ、運営基準を満たした業務遂行を継続している。次年度も継続するとともに、「仕事と介護の両立支援」や「意思決定支援」等、社会情勢にあった情報提供や提案ができるよう取り組みたい。また、管理者が日本介護支援専門員協会や秋田県介護支援専門員協会の業務を、定常業務と共に行うことができたことに、法人及び事業所職員の協力に心から感謝している。個人の意欲や働き方が、他職員の意欲向上に繋がるような好循環な体質のもと事業運営を進めていきたい。

令和4年度 訪問介護センター 総括

今年度も特定事業所加算を維持する事ができ、身体介護の新規依頼も多くあり身体介護の件数も伸ばす事ができた。しかしながら、コロナ禍もあり利用一時中止となるケースも多くあり、今後も件数を維持できるよう新規を受け入れていきたい。職員間での申し送りは、問題が発生したケースに個人での判断ができないことが多くあり、この課題は事業所研修で再度確認していきたい。サービス内容にばらつきが無いよう、全職員統一したサービスが提供できるよう努力していきたい。

令和4年度 訪問リハビリセンター 総括

1. 訪問リハビリテーション指示医（事業所医師）による診察は、利用者様に“りんごの里”にご来園頂いて受けて頂く形で継続している。令和4年11月に施設内で発生したコロナウイルスのクラスターにより施設外部からの利用者の来園が難しくなり、指示医による診察が出来なくなる状況が発生した。タブレットによるリモート診察も可能であるが、運用については課題もあり今後の検討が必要と感じた。
2. 訪問リハビリテーション指示医（事業所医師）の指示に基づいての訓練提供、主治医・指示医との情報交換については書面を介して行っている。
3. 「健康アップ教室」は火・水・木曜日の3日/週で実施。活動場所については施設入所・通所者のリハビリテーションエリアと共用のため、活動メニューを見直した。

令和4年度 ラ・ボア・ラクテ居宅介護支援センター 総括

令和4年5月にて当センターの業務終了となる。

令和4年度 りんごの里くらしのサポートセンター総括

「住まい・生活支援事業」

①見守り・安否確認について

・現在1名の方が利用中。生活支援の一つとして令和5年度も継続していく。

②住まいについて

・問合せ等の件数はありませんでした。

「地域支援活動」

住民主体による活動の「つどいの和 りんりん」への送迎や諸準備など後方支援を継続している。

①つどいの和りんりんへの令和4年度の参加者延べ数は304人でした。

②その他の地域へ出向いての活動は、コロナ禍のため実施実績はありません。

事業別利用者状況表（令和4年度）

りんごの里 福寿園	R4.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5.1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）	平均利用者
施設サービス	2,573	2,644	2,538	2,572	2,508	2,411	2,513	2,476	2,373	2,528	2,338	2,600	30,074	2,506	90.7
短期入所	228	248	254	300	293	290	305	253	69	246	267	273	3,026	252	
介護予防短期入所	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3	0	
合計	2,801	2,892	2,792	2,872	2,801	2,701	2,818	2,732	2,442	2,774	2,605	2,873	33,103	2,759	
通所リハビリテーション	859	823	854	857	672	498	787	661	3	701	745	854	8,314	693	28.7
予防介護通所 リハビリテーション	48	58	61	59	46	34	61	60	0	69	62	67	625	52	
合計	907	881	915	916	718	532	848	721	3	770	807	921	8,939	745	

※11月21日～12月末まで新型コロナウイルスクラスター発生による、短期入所、通所リハ中止

グループホーム ひだまりの家	R4.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5.1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）	平均利用者
	270	279	270	279	279	254	248	259	279	279	242	252	3,190	266	8.7

グループホーム ひなたの家	R4.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5.1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）	平均利用者
	270	260	240	276	279	270	279	270	279	279	245	257	3,204	267	8.8

ショートステイ ラ・ポア・ラクテ	R4.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5.1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）	平均利用者
	1,873	1,913	1,871	1,930	1,910	1,862	1,923	1,732	1,863	1,881	1,727	1,907	22,392	1,866	61.3

りんごの里 福寿園 訪問介護センター	R4.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5.1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）
身体介護	121	143	109	110	140	121	134	100	134	132	129	140	1,513	126
身体生活	62	61	63	62	63	69	63	64	69	67	60	79	782	65
生活援助	60	104	100	83	83	80	75	58	81	81	65	72	942	79
総合事業	56	47	44	45	48	48	37	35	40	37	33	38	508	42
合計	299	355	316	300	334	318	309	257	324	317	287	329	3,745	312

※総合事業分等は含む

りんごの里 福寿園 訪問リハビリセンター	R3.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5.1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）
	102	91	116	123	104	126	128	111	122	106	104	140	1,373	114

※介護予防分含む

りんごの里 福寿園 居宅介護支援センター	R4.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5.1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）
	157	163	162	166	164	171	173	168	154	155	165	170	1,968	164

ラ・ポア・ラクテ 居宅介護支援センター	R4.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5.1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）
	25	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	2

※令和4年5月15日付け閉鎖

事業実績報告の付属明細書

1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況

特にありません。

2. その他の重要な事項

特にありません。